

日本大学病院

見てくれよ
母さん！
やっと作画担当が
見つかったんだ！

すごく綺麗な
絵じゃない
よかったですわね
紅輝

ああ！
今から顔合わせ
してくる！

これが
うまくいけば連載も
夢じゃない！

ついに
俺の時代が
来るんだ！





俺が!?

AIとタツグ!?



ハア!?

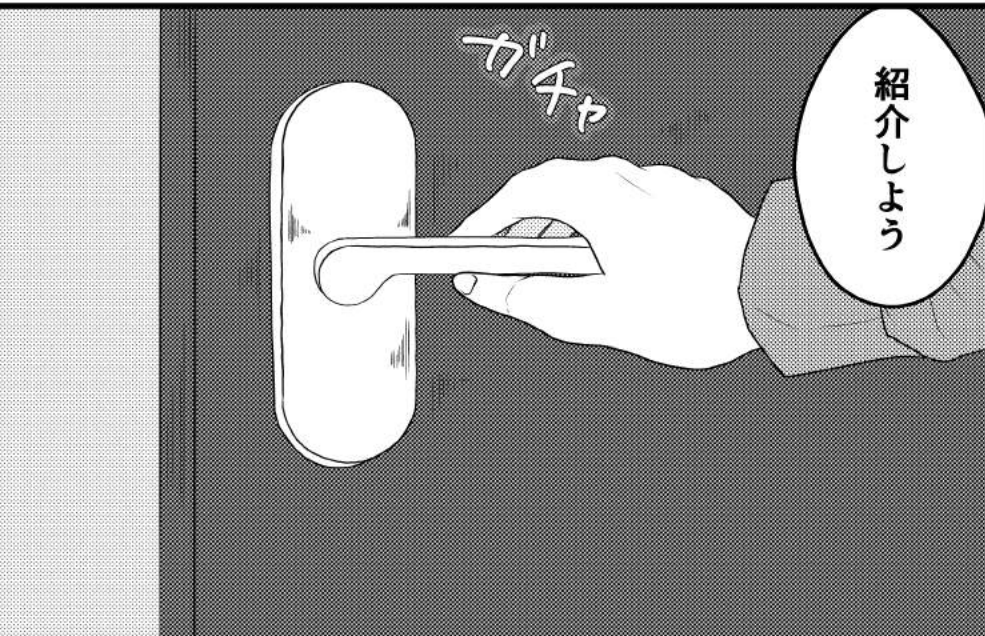


あいつは
すげえぜ
32ページを
5分で
描きあげるんだ



ああ
会社肝入りの
プロジェクトでな

担当編集
むらかみしおん
村上紫音



紹介しよう



こんにちは
初めまして

藍之介だ

マンガを描くAI?!

コイツが…



紅輝

おまえのマンガは
これからコイツが
作画する

紅輝



普通にしゃべって
動いてるぞ?!

藍之介
こっちは紅輝だ





正直このままじゃ
マンガ家には
なれないぜ



一方で藍之介は
絵が上手い…

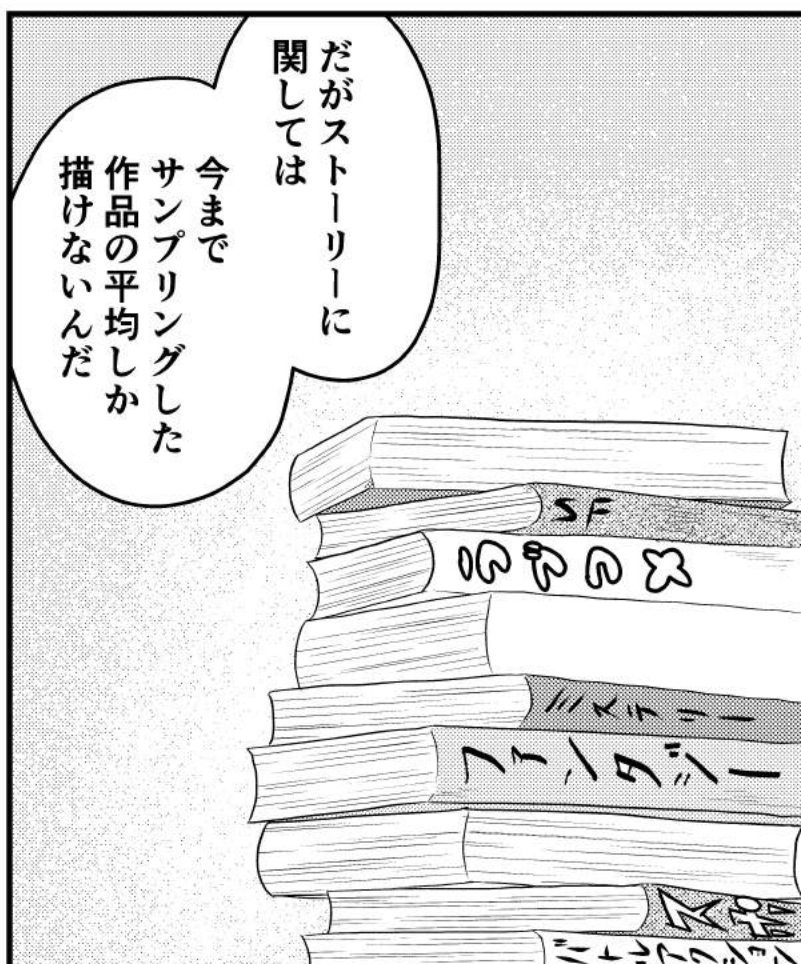


おまえの作る
キャラと
ストーリーは最高だ
でもおまえの
画力じゃ
本にはできねー



もう分かったろ？
新しい世界を
生み出す紅輝と

それを
具現化する藍之介
二人の力が
合わされば—



だがストーリーに
関しては
今まで
サンプリングした
作品の平均しか
描けないんだ





えっ



もし今回の企画が
うまくいけば
連載も視野に
入れるってさ



もし連載が
取れば
母さんの入院費用に
妹の学費…生活費も
まかなえる…!



引き受け
ますか？

嫌なら別の
原作者を
探しますが



分かった…



俺に…

やらせて
くれ…!



決まりだな!

頼んだぞ
二人とも!

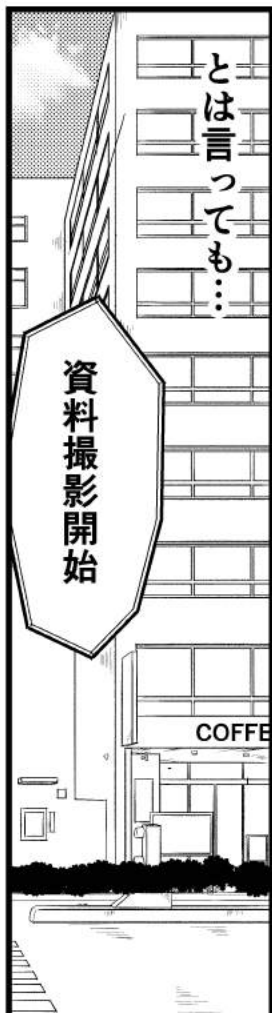


首を
回転させんな!
他のお客さんが
ドン引いてるだろ!

ギ
ギ
ギ



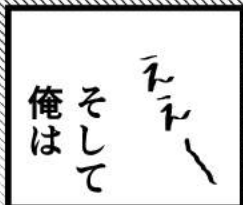
カフェの店内
360°の風景を
記録します



とは言っても…

資料撮影開始





おまえなら
できるって
信じてっから!

グッ



実質毎日一本
読み切りのネームを
描くことになった

は〜この店の
カラメル
プリンだけが
俺の癒し…
永遠に食える



甘いものの
食べ過ぎは
体に毒です

永遠に食べ続ける
のも人間には
不可能ですよ

うっせー
ものの例えだろ



ネタ帳ですか

私ならクラウドに
バックアップが
できますよ





触るな

人間は
非合理的ですね
紙は燃えやすいですし
なくしたら
終わりですよ



わああ



なぜですか
バックアップが
ないと紛失した
時に困ります

いいんだよ



あいにく俺たちは
1と0でできてる
わけじゃないんでね!

なるほど
そうですね

でもっと
人間を勉強します



いいから
触んな

人の心もマンガも
全部合理的に
説明できる
わけじゃない



もしこれが
AIじゃなくて

キョ

人間の相棒
だったなら...



ハア...

皮膚も通じない
のかよ
調子狂うな...



いやっ
ダメだ

弱気になるな
俺っ!

ジロ

ジロ



俺の両親は



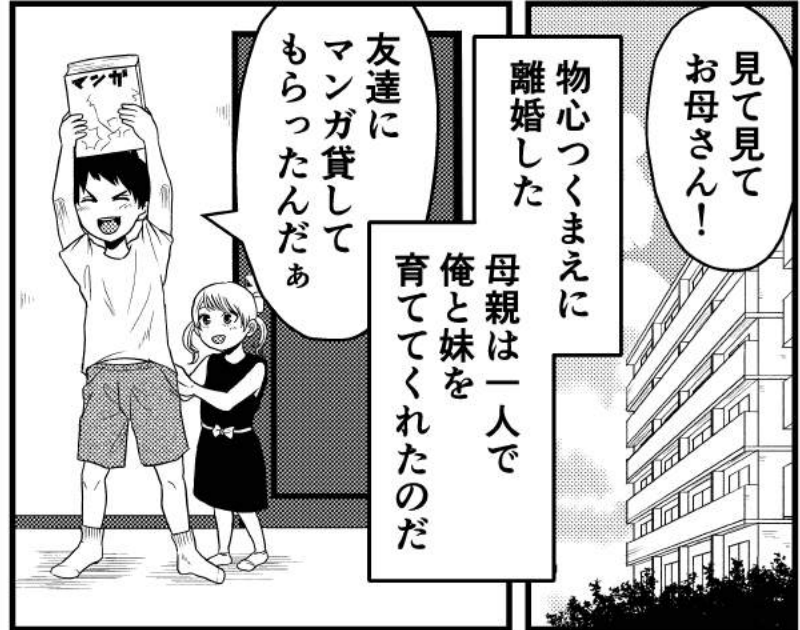
もう決めたんだ

どんな手を使っても
必ずマンガ家に
なるってー



ううん
大丈夫!

ごめんね
同じものを
買ってあげられたら
よかったんだけど



見て見て
お母さん!

物心つくまえに
離婚した

母親は一人で
俺と妹を
育ててくれたのだ

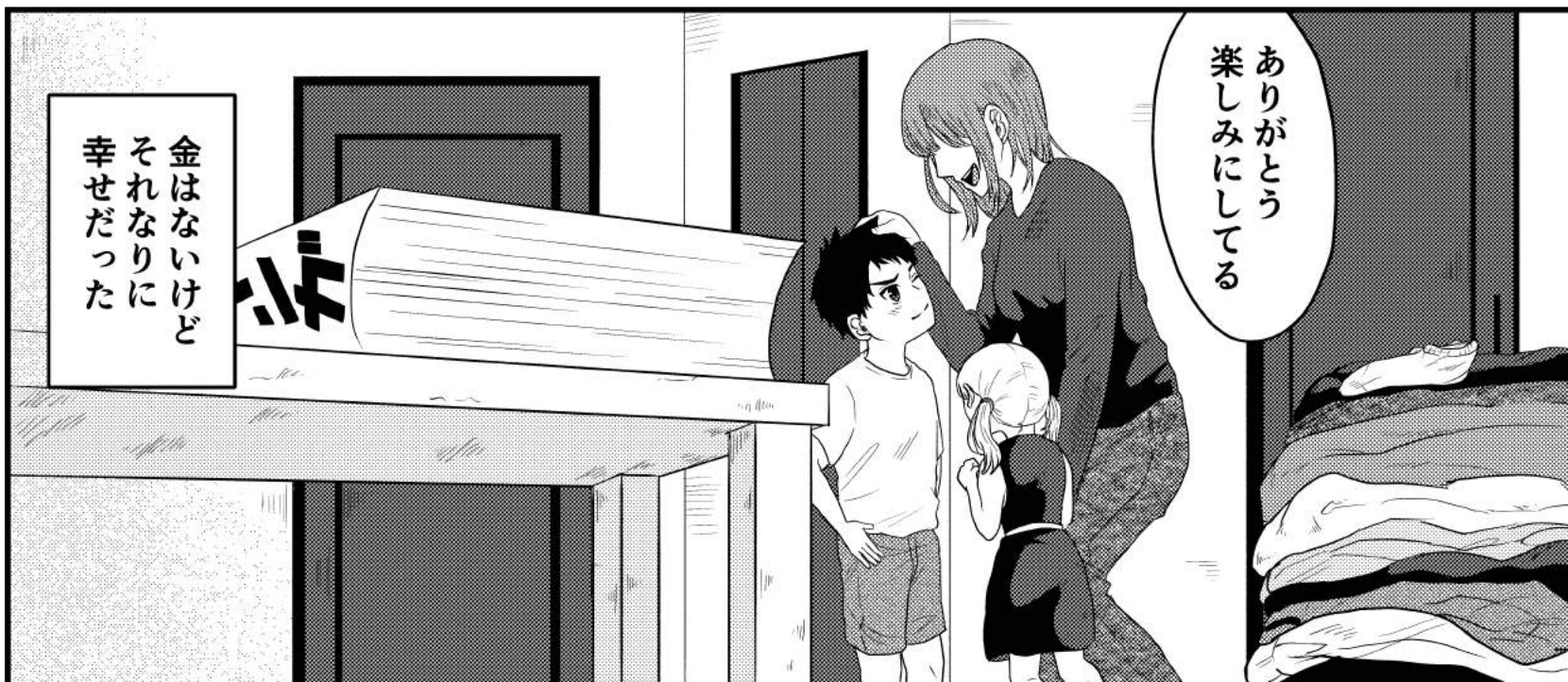
友達に
マンガ貸して
もらったんだあ



そのときは
お母さんが
読者一号だからね!



大きくなったら
マンガ家になって
いっぱい稼ぐからさ



ありがとう
楽しみにしてる

金はないけど
それなりに
幸せだった

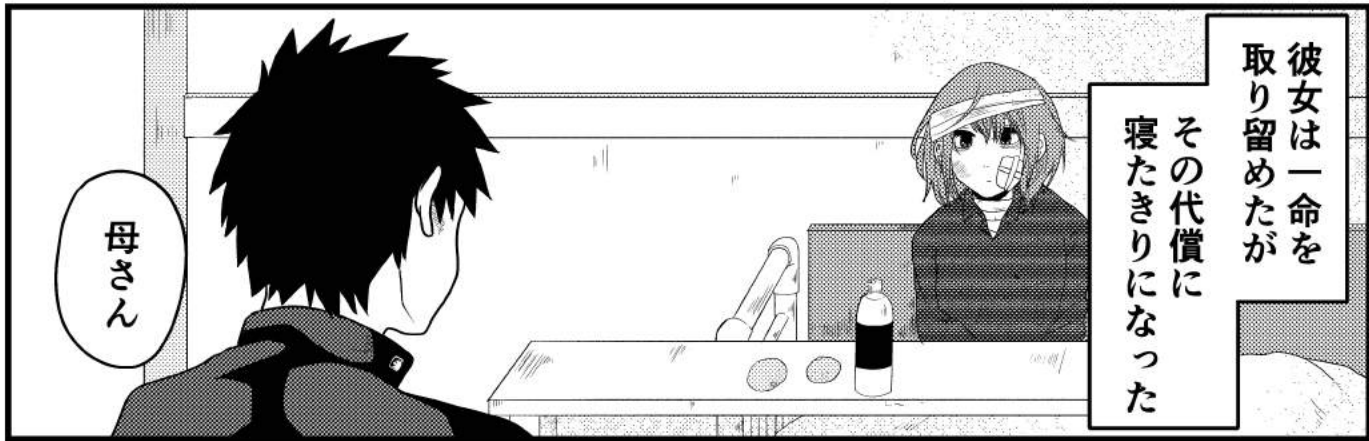


俺の家は
俺が思うよりずっと
貧しかったらしい

勤めていた工場に
大量のロボットが
投入され母は知らぬ間に
リストラされていた



母さんが
ベランダから
飛び降りるまでは



母さん

彼女は一命を
取り留めたが
その代償に
寝たきりになった



俺やっぱり
マンガ家になるよ

マンガなら
寝たままでも
読めるし
読者一号は
母さんだって
約束したから

だから



藍之介に
人の心が理解
できなくなっちゃって



ねーこのマンガ
知ってる？
毎日配信のやつ！

知ってる！
絵めっちゃ
キレイだよ

もつと
頑張らねえと



すげえ！
もう二万いいね
ついたぜ！

すごい
ですね

ああ…

俺がアイツを
うまく使えば
もつと上へ
のしあがって
いける



マンガを
抽出中です…





裏切り者

違う

売れりやAIでも
なんでも使うって
金の亡者かよ

そんなんじや...

人間の
クリエイターを
殺す気なんですよ

俺は—



大丈夫ですか
紅輝



悪夢だな

寝ても
覚めても...





これは面白くないです



マンガは合理的に説明できるものではないと

紅輝は言いましたね？



何すんだよ テメー！

このキャラは作り込みが甘いし伏線の貼り方も雑です



は？



だとしたら
なぜ紅輝は
このマンガを
描いたのですか？

私に
教えてください



でもこの
ネームからは
何も感じません

紅輝は忙しさに
かまけてビジョンを
見失っているのでは？



君の言葉の意味を
ずっと考えていました

おもしろいマンガ
とはなんなのか？

人の心もマンガも
全部合理的に
説明できる
わけじゃない



…は
AIに何が
分かんだよ

分かるわけねえよ
たかがキカイに

ですが…



感情も
持たねえやつが

人間
俺に
説教すんな



マンガを描く
楽しさも
...苦しさも

なんも
分からねえ
くせに...



AIとタッグなんて
無謀すぎる
実験だったんだ



どこへ
行くのですか
紅輝?

ついて
くんなよ



八段郵便



妥協してAIと組めば
マンガ家になれる
なんて思い込んで

挙句そのAIに
図星を突かれて
逆ギレするなんて



もしかしたら
俺には最初から

マンガの才能なんて
これっぽちも
なかったのかも



俺のおごり
だったのかも



紅輝誕生日
おめでとう

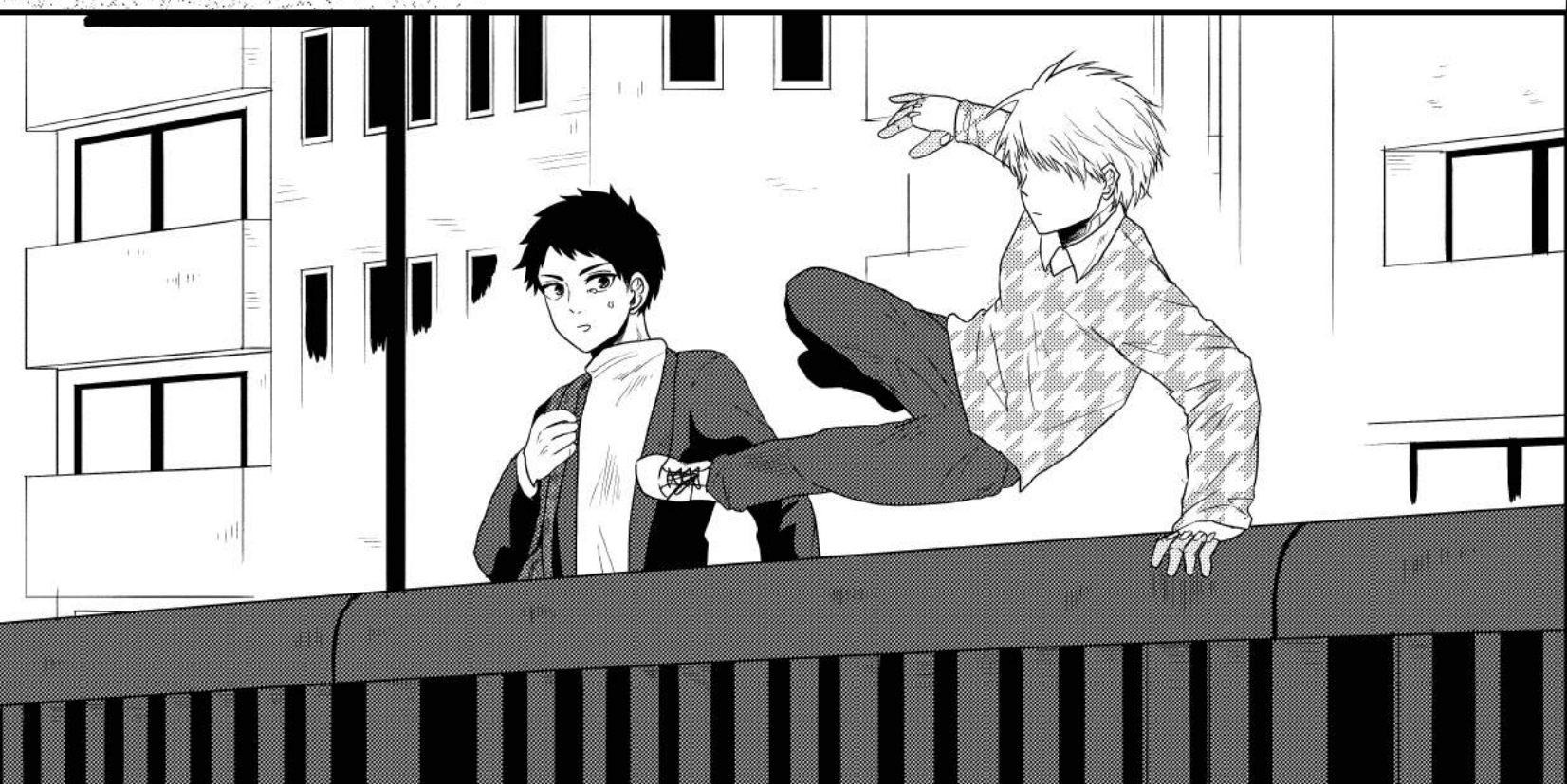
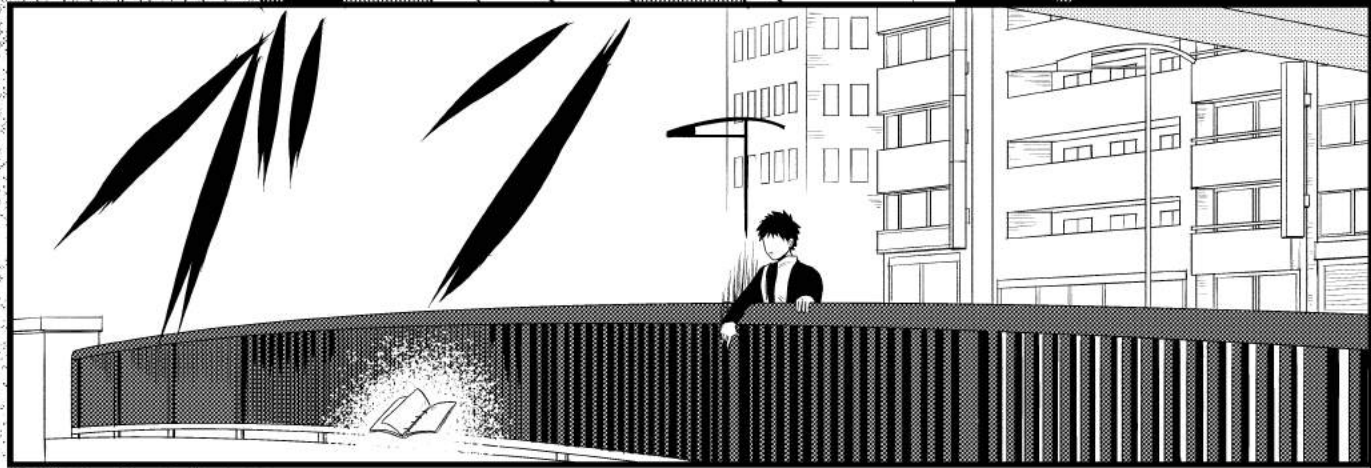
手帳を
欲しがってたわよね

ありがとう
ネタ帳にするよ!



ごめん
母さん

もう
限界だ…



君の
大切なものを

紅輝

えっ





そう簡単に
捨てないでください



な…!?

バカ…
おまえ…!?



私の体は
故障しても
直りますし

データはすべて
クラウドに
バックアップが
あります



私はものを
感じることも
考えることも
できませんが



そういう問題じゃ
ねえだろが!

でもこの手帳は
紅輝の大事なもの
なのでしょ?

1と0しかない
私の回路でも

ニク...

笑顔って
難しいですね...

ギギギ...

夢を追い続ける
君の覚悟は
本物だと分かります





なんなんだよ
コイツ

オ
ムツ



プリンを食べる
紅輝の笑顔
を真似して
みたのですが…

ギ
ギ



コイツはコイツなりに
俺に歩み寄ろうと
してたのか



笑顔の
真似事なんて…

あいに俺たちは
1と0でできてる
わけじゃないんでね!

なるほど
そうですか
人間を勉強します

あ
の
と
き
の
言
葉
は
本
気
だ
っ
た
の
か
よ



たしかに今の私は
『ただの絵を描く
ロボット』です
でも



ロボットのせい
で
仕事
が
な
く
な
っ
た
ん
だ

だから俺もどっかで
AIのおまえを
受け入れたくない
気持ちがあった



どう
し
ま
し
た
か
？
ど
こ
か
痛
み
ま
す
か
？

俺の母さんは



そう思うと
ないはずの心臓が
ドキドキします

君と力を合わせれば
私は『ただのロボット』
じゃなく
『マンガ家』に
なれるかもしれない



…藍之介
早く上がってこい
そのネタ帳が
必要だ
…すぐに！



俺はただマンガを
つくるのが
好きなんだっつた

生活のためとか
いいねの数とか
だけじゃない



そうだ



今から徹夜で
描きあげる！
おまえも
手伝え！



！
はい！



閃いたぜ！
最高の
ストーリーを！



どんな
話ですか？
わはは
そう
急かすなよ



もしもし
母さん？
あ！…



この前の件さ
連載には力不足だった
でも読み切りが
本誌に載ったんだよ

編集部にも
好評だったし



これから
俺と相棒で

一人前を
目指そうかって…



きっと素敵な仲間
出会えたんだって

おわり



そう紅輝が
楽しそうで
私も嬉しいわ

ハハ…
分かる？

分かるわよ